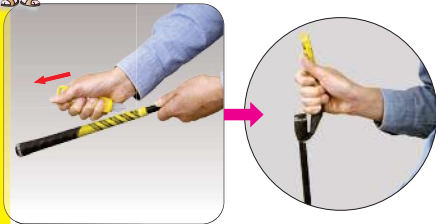


# 簡単だよ、グリップ交換 ウッド・アイアン編

**グリップには寿命があります。**  
表面がツルツルになったグリップは汗や雨ですべりやすく、梅雨や夏場はとて危険です。長年使って表面がカチカチになってしまったりグリップ時の感触も悪く、しっくりこない。たとえ使用しなくてもゴムは老化してしまうので、保管状況や使用回数にもよりますが、グリップの寿命は約1年を目安に自分で交換してみよう!!



## ① 古いグリップをカットする



グリップカッターでグリップに切り込みを入れます。切り込みを入れる際は必ずヘッド側からバット側に向けて入れてください。

## ② 古い両面テープを取り除く



シャフトに残った両面テープをキレイにはがします。両面テープのカスが残っていると新しいグリップを上手に装着できません。

**Point** はがれにくい場合はドライヤーの熱(カーボンシャフトは熱に注意)であたためてテープの糊を柔らかくしたり、グリップ交換溶液をかけて取り除くと簡単。最後にグリップ交換溶液でシャフトをキレイに拭いておきましょう。カーボンシャフトは端からカーボンの繊維をはがれてくることがあるので、必ずヘッド側からはがすこと!

## ③ 両面テープを巻く長さを確認する



新しいグリップをシャフトに当てて、両面テープを巻く長さを確認、赤えんぴつやマジックでマーキングしておきましょう。

## ④ 新しい両面テープを巻く



両面テープの巻き方には「らせん巻き」と「たて巻き」があります。一般的には「らせん巻き」が主流です。(画像のらせん巻きでは両面テープを約65cm使用します)

**Point** グリップの長さより少し短めの位置から貼り始め、反時計回りとなります。これが基本です。

画像は「らせん巻き」です。

## ⑤ 両面テープで蓋をする



両面テープが巻けたらセパレーター(裏紙)を剥がし、テープの端でシャフト先端(切り口/バット側)を完全にふさいでしまいます。これにより、水や砂の浸入を防ぐことができます。

**Point** テープのういているところは親指の腹でシワにならないように押さえるとキレイに貼れます。

## ⑥ 両面テープに交換溶液を吹き付ける



クラブ側(シャフト)の両面テープ全体に溶液を吹きかけます。この際、吹きかけていない箇所がないようにしましょう。



**誤った使用方法**  
エアゾール交換溶液は、缶を横向きや逆さまにして使用しないでください。横向きや逆さままでのご使用はガスだけ出て、中身をきれいに使い切れなくなってしまいます。

## ⑦ グリップ内側にも交換溶液を吹き付ける



グリップエンドの穴を指でふさぎ、交換溶液をグリップのなか全体に吹き付けます。



グリップ両はしを塞ぎ、交換溶液が全体にいきわたるように軽く振ります。



最後の仕上げに...  
最後にグリップ内に残った溶液をテープにかけて、再度しみこませて。

## ⑧ グリップを入れる



手早く一気に差込む  
新しいグリップを一気にシャフトに挿入します。(交換溶液がたっぷりついていればスルリと入る) 挿入の際、後で簡単にスクエアに直せるようにある程度まっすぐに入れます。目安は、シャフト軸のセンターにグリップをスクエアに合わせる。

## ⑨ グリップを自分の好みに合わせる



グリップの向きを確認  
バックライン(BL)のあるグリップはバックラインがまっすぐ入るように調整します。バックラインの入り方により、球筋が変わることがありますので注意して調整してください。またバックラインのないグリップは特に入りに注意は必要ないですが、マークが正面にくるように調整しましょう。

**Point** 装着後、10分が勝負!!  
交換溶液が乾き始める前に調整を!!

## ⑩ グリップの向きを合わせる



実際にグリップして微調整  
最後に実際にグリップを握ってみて確認しましょう。見た目ではなくグリップを握ったときのフィーリングが肝心だからです。最後に、布に交換溶液をつけてシャフトをキレイに拭いておきましょう。

**Point** グリップの長さもチェック!!  
入れる前の長さが変わってしまうと、太さが変わってしまいます。

乾燥  
挿入後は、24時間以上放置し十分に乾かしてから使用してください。



完成!!

# 簡単だよ、グリップ交換 パターン編

**グリップには寿命があります。**  
表面がツルツルになったグリップは汗や雨ですべりやすく、梅雨や夏場はとて危険です。長年使って表面がカチカチになってしまうとグリップ時の感触も悪く、しっくりこない。たとえ使用しなくてもゴムは老化してしまうので、保管状況や使用回数にもよりますが、グリップの寿命は約1年を目安に自分で交換してみよう!!

## 準備するもの



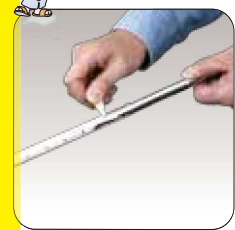
## ① 古いグリップをカットする



グリップカッターでグリップに切り込み2本を入れます。切り込みを入れる際は必ずヘッド側からバット側に向けて入れてください。

**Point** パターグリップは肉厚のため切り込みを2本入れることにより、簡単に取り除くことができます。

## ② 古い両面テープを取り除く



シャフトに残った両面テープをキレイにはがします。両面テープのカスが残りっていると新しいグリップを上手に装着できません。

**Point** はがれにくい場合はドライヤーの熱(カーボンシャフトは熱に注意)であたためてテープの糊を柔らかくしたり、グリップ交換溶液をかけて取り除くと簡単。最後にグリップ交換溶液でシャフトをキレイに拭いておきましょう。カーボンシャフトは端からカーボンの繊維をはがれてくることがあるので、必ずヘッド側からはがすこと!

## ③ 両面テープを巻く長さを確認する



新しいグリップをシャフトに当てて、両面テープを巻く長さを確認、赤えんぴつやマジックでマーキングしておきましょう。

## ④ 新しい両面テープを巻く



両面テープの巻き方には「らせん巻き」と「たて巻き」があります。一般的には「らせん巻き」が主流です。(画像のらせん巻きでは両面テープを約65cm使用します)

**Point** ちよい太にする場合は両面テープを2回巻くことで約0.5mm程、太くなります。その違いを感じない人はほとんどいない.....

## ⑤ 両面テープで蓋をする



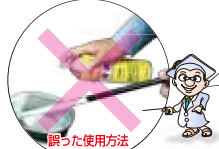
両面テープが巻けたらセパレーター(裏紙)を剥がし、テープの端でシャフト先端(切り口/バット側)を完全にふさいでしまいます。これにより、水や砂の浸入を防ぐことができます。よくマーカを挿している人がいるがあれは間違い。テープが巻けたらカバーを剥がしましょう。

**Point** テープのういているところは親指の腹でシワにならないように押さえるとキレイに貼れます。

## ⑥ 両面テープに交換溶液を吹き付ける



クラブ側(シャフト)の両面テープ全体に溶液を吹きかけます。この際、吹きかけていない箇所がないようにしましょう。



**誤った使用方法**  
エアゾール交換溶液は、缶を横向きや逆さまにして使用しないでください。横向きや逆さまでのご使用はガスだけ出て、中身をきれいに使い切れなくなってしまいます。

## ⑦ グリップ内側にも交換溶液を吹き付ける



グリップエンドの穴を指でふさぎ、交換溶液をグリップのなか全体に吹き付けます。



グリップ両はしを塞ぎ、交換溶液が全体にいきわたるように軽く振ります。



最後の仕上げに...最後にグリップ内に残った溶液をテープにかけて、再度しみこませて。

## ⑧ グリップを入れる「グリップスターターを使う」



今回はグリップスターターを使ってグリップをシャフトに挿入します。はじめにグリップ開口部にスターターを差込みます。



**Point** グリップスターターはグリップ交換が初めての方でも安全・確実にグリップ交換ができるようにしたグリップ挿入用のガイドです。



シャフトの先端がグリップに入ったところでスターターをヘッド寄り移動して外してから、グリップを最後まで挿入してください。その後、一気にシャフトに挿入します。(交換溶液がたっぶりついでいれればスリリと入る)挿入の際、後で簡単にスクエアに直せるようにある程度まっすぐに入れておきます。目安は、シャフト軸のセンターにグリップをスクエアに合わせることに。

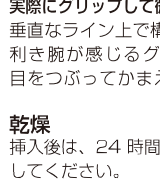
## ⑨ グリップの向きを合わせる



パターグリップの平らな面を頼りにスクエアになるよう調整します。



**装着後、10分が勝負!!**  
交換溶液が乾き始める前に調整を!!



**Point** グリップの長さもチェック!! 入れる前の長さや変わってしまうと、太さが変わってしまいます。



実際にグリップして微調整。垂直なライン上で構え目をつぶる。利き腕が感じるグリップの平らな面とフェイスが、目をつぶってかまえても垂直になるようにします。

**乾燥**  
挿入後は、24時間以上放置し十分に乾かしてから使用してください。

**完成!!**

